

# 諸事雑感(2)

～西宮市の財政破綻を防ぐためには  
透明性の高い会計制度が必要です～

(中面から続く。)

## ■本当の経営状況は？

中央病院の平成17年度収入には『一般会計負担金』と『一般会計補助金』が含まれています。これらは中央病院の赤字を補填するために、市の一般会計から支出されているものです。その総額は約9億7,400万円(前年比、約2億2,260万円増)。これを考慮すると「中央病院の病院経営による収入は年間50億円未滿。一方、支出額は年間60億円を超え、毎年の赤字額は約10億円。しかも赤字額は年々、増加傾向。」という実態が明らかになります。見掛け上の決算数字とは異なり、中央病院の経営は、すでに実質的には破綻しているのです。こうした補助金による見掛け上の決算改善は他の多くの事業でも行われており、中央病院は一例でしかありません。こうした会計操作の結果、発表される決算からは経営の実態が非常に見えにくくなっています。

## ■他にも、こんな問題点があります

経営を行うためには資産と負債のバランス、手元資金と借金の全体像を把握していなければなりません。しかしながら現在の会計制度下では、一般会計・特別会計・企業会計(※1)、公社・第三セクター(※2)などを含めた市全体の財政状況を把握することは困難です。こうした現状を改めるには、市が関係する全ての事業を含んだ、連結会計の導入が求められます。

また施設建設や公共工事にかかった費用が施設・設備の費用に計上されない点も問題です。企業が施設・設備をつくる場合、か

かったコストは『減価償却費』として費用に計上されます。当然、施設・設備の収支には、こうした費用も反映されます。ところが西宮市の会計には、こうした考えはありません。毎年発表される収支は施設・設備が出来あがった後の運用に関してのものでしかなく建設や整備等にかかった費用は無視されているのです。こうした費用も考慮すると、多くの事業の赤字はさらに膨れ上がります。

※1 特別会計は「国民健康保険特別会計」「農業共済事業特別会計」「食肉センター特別会計」など13の事業会計、企業会計は「病院事業会計」「上水道事業会計」「工業用水道事業会計」の3会計。両者は各事業単体の会計を行い、一般会計では、これら特定事業を除いた市の事業全般についての会計を行う。

※2 国または地方公共団体が民間企業と共同出資によって設立した法人。行政の特定の政策目的の遂行のため設立され、一般会計とは区分される。

## ■信頼できる会計制度の確立を！

決算の透明性・信頼性を高め、正確に現状を把握できる会計制度を確立することが必要です。そうすることによってはじめて、西宮市全体の問題点を精査するための環境が整います。もちろん収支や採算性だけで行政サービスを評価することには問題もあります。しかし、客観的な収支状況を元に行政運営を行うことが重要なのは言うまでもありません。一方、行政には、こうした意識が希薄です。行政サービスの向上と財政改善のため、こうした課題についても様々な観点から提案を行ってまいります。

市政に対するご意見・ご要望をお持ちの方、どしどしご連絡ください！チラシの配達をご希望の方、お知り合いに配っていただける方のご連絡もお待ちしています。

西宮市議会議員

## しぶや祐介事務所

〒662-0927

西宮市久保町1-16-202 (阪神西宮駅 徒歩7分)

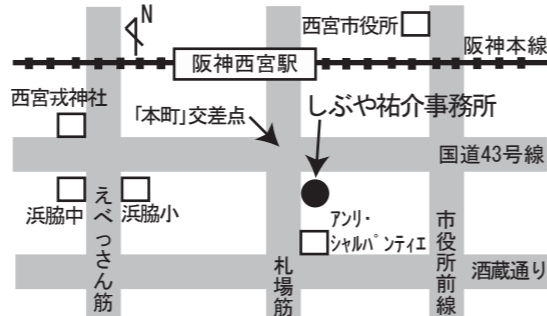
TEL:0798-22-7895 FAX:0798-63-2167

E-mail: shibuya@hcc6.bai.ne.jp

URL: http://hccweb6.bai.ne.jp/shibuya/

ブログ: http://shibuya.blog.bai.ne.jp/

プロフィール: 昭和48年西宮生まれ。西宮市立浜脇小学校、浜脇中学校卒業。私立明星高等学校卒業後平成8年京都大学経済学部卒業。阪急電鉄(株)に8年間勤務、平成16年7月退職し蒼志会入り。平成16年11月西宮市議会議員補欠選挙にて初当選(1期目)。



# しぶやの活動レポート

## 第8号

行動する政治  
蒼志会

市政報告

2006年10月発行

データ量を節約するため、  
顔写真を削除しています。  
この部分は、  
1～6号までと一緒です。  
あしからず、ご了承下さい。

私たちが暮らす、  
西宮の未来のために。

西宮市議会議員

# しぶや祐介

浜脇小 卒  
浜脇中 卒  
明星高 卒  
京都大 卒

元 阪急電鉄(株)勤務

## ■高校入試制度改革の進行状況

昨年12月の市議会定例会において、私が所属する蒼志会は「西宮学区の公立高等学校の入学試験において、総合選抜制度を改め、複数志願制度(※1)を早急に導入することを求める意見書(案)」を議会に提出し、過半数の賛成を得て可決されました。その後、市は今年5月「高校改革に伴う選抜制度改善検討会」を立ち上げました。検討会設立に際しての趣意書にも「現在の総合選抜制度には改善が必要」と考える市の姿勢が明確に示されています。検討会は立ち上げ以来、9月末までの間に6度開催されました。現在は他市の動向も踏まえ(※2)、総合選抜制度の問題点・複数志願制度導入のための課題等について研究・議論が行われています。

※1 希望する市内公立高校二校までを受験できる入試制度。二校とも不合格の場合でも一定以上の点数に達していれば、いずれかの市内公立高校に合格できる。

※2 尼崎市・芦屋市では来年度から公立高

校の入試制度を従来の総合選抜制度から複数志願制度に改めることが決定している。

## ■これからの展望

現在は検討会において複数志願制度への移行も視野に入れた諸課題の整理が行われている段階ですが、この議論を受けて市教育委員会の意思決定は本年度中にもなされると見えています。本年度中の意思決定を求めるとともに、早期の複数志願制度導入を実現するべく、行動してまいります。

## ■公教育の充実のために

現在、格差の拡大・固定化が大きな社会問題となりつつあります。このような状況の中、誰もが通うことのできる教育機関である公立学校が果たすべき役割と求められる責任は、ますます大きくなっています。

公教育は基礎学力の低下、教師の資質の問題など多くの課題を抱えています。西宮市を「文教住宅都市」の名にふさわしいまちにするため、高校入試制度改革にとどまることなく様々な提案を続けてまいります。

<http://hccweb6.bai.ne.jp/shibuya/>

日記に詳しい活動内容と、日々、考えていることなど掲載しています。ぜひ、ご覧ください。